

暇である。いや、正確に言うと忙しいのだが、暇な時間も多し。何だかよく分からなくなってきた。

つまり、在職中は出来なかった様々なデータの整理、作成や、これから明らかになるであろうプロジェクトの手伝いなどで、ただプラプラしている訳ではないのだ。その上、今までじっくり読んでいた暇の無かった、買いためた本を読むのにも時間を割いている。

そんな中、「田宮模型の仕事」という本を読んだ。以前途中まで読んで、そのままなかなか読み進まなかった本だった。改めて最初のページから読んでみた。田宮模型創世記から現在までの苦労話など面白くつづられている。

さて、私は模型というものは元来、好きではない。

例えば、これが本物のレーシングカーを作るとなれば、相当面白い。精魂込めて仕上げ、エンジンに火が入った瞬間などは何にも変えられない喜びがある。それがサーキットを走るとなると、なおさらだ。

でも、模型は一生懸命作っても走ってくれない。それどころか、飾っておくと甥っ子の手によって暴走の果てに、クラッシュする事は目に見えている。さすがに材料がプラスチックだけあって、一度クラッシュすると見るも無残な姿になる。

しかし最も大きな理由がある。これは性格的なものだけど「待ってられない」のだ。何がって、接着とか、塗装が乾くのが。小さな物が相手だけに、余計に待てない。何しろ作り始めたら一気にダダーッと仕上げたい性分なのだ。過去、そのおかげで随分ガッカリな作品を生み出してきた経験がある。これがトラウマとなっており、以来模型を作るのは極力避けてきたのだ。

時間を贅沢に使える今、「田宮模型の仕事」を読んでから、少し模型を見る目が変わった。作り手がこんなにも創意工夫し、一つの模型のバックにこんなにもドラマがあったのかと。

そこで、折を見て玩具売り場を歩いてみた。あるわ、あるわ。プラモデルの山。航空機から自動車、バイク、アニメロボット物から、はたまた暴走族仕様のプラモデルまで。

「ふ～ん、色々あるんだ」

その中で、ひときわ目立つ存在があった。それがCARTのLOLA T93/00である。早速買って帰った。

有難い事に、ずいぶん昔に封印していた塗料や接着剤は未だ健在であったので、それらを利用して、いざ製作に入る。

「ここはゴールドアルマイトにしよ」「よし、ダンパーはダイナミックだ！」

な～んてはしゃぎながら、なんとか形になった。都合の良い事に、このモデルははめ込み式で、接着剤を必要としていなかった。そのお陰で、随分製作スピードは上がり、この「待ってられない」人間にも大満足の結果をもたらしたのである。

驚いたのは、その精度だ。接着と違いはめ込みだから、ホンの些細な寸法の違いで「ガッカリ」ってな事になり兼ねない。しかも、接着式にはない「爪」の存在は、大きくモデルの雰囲気左右する。しかしもはやそんな心配など無用のものだ。たしかに、フロアパネルにいくつか突起があるが、これは仕方がないだろう。さすがは世界のタミヤ。

これに気を良くして、今度は何を作ろうかなあ・・・、と画策を練っている今日この頃なのだ。

